

島前合宿での一番の学びは、人と人の心の繋がり大切さです。

私は4泊5日間実際に島根県島前で過ごした中で、この地域は幸せで溢れていると心から感じました。そして、人々の心の繋がりが濃く、地域の人々からの温かく優しい心を受けとりその大切さを実感する場面が多かったです。それだけでなく、おもてなし・思いやりの心の連鎖が広まっていることも島前地域の人々の幸せの要因の一つなのではないだろうかと考えました。

たとえ、この島の人口密度の希薄が進行していても、人と人の心の密度の濃厚さによってこの島前地域の人々の生活を豊かにされていると感じる4泊5日間でした。

人と人の心の濃度の濃厚さは、現在の日本各地で進行している過疎化や高齢化の社会問題の解決の糸口すなわちヒントになると思います。なぜなら、過疎化や高齢化の社会問題の対策として社会福祉事業や施設の導入などの物理的対策を行うだけでは、解決しないと考えます。もちろんこのような対策も必要ですが、それと同時に心理的対策も必要だと考えます。この心理的対策というのが心の繋がり改善です。

では、実際に島前合宿の国内研修の中で得た事、気づきや学びを述べていきます。

私は、「ございな」という障害者支援団体の福祉施設に訪問をしました。この団体の活動のきっかけは、町内会で障害者の人たちの仕事の場がもっと多くなれないか？という話が持ち上がり、現実化していったそうです。

この施設の利用者の高齢化が問題です。しかし、この施設での雇用形態は就労支援B型であり、雇用契約を結んでいません。そのため利用者は好きな時に仕事をするので負担なく働くということができます。

また、就労の支援だけでなく平日は働く、休日は娯楽の時間と定めているそうです。少し外に出かけたり、イベントを開催したりといった娯楽を考えた工夫や利用者の趣味に寄り添うという工夫があるこの団体のあたたかさを感じました。

このように高齢化という問題がある中、利用者のニーズに合わせた取り組みで障害者支援をし、環境の変化にきちんと対応していること。そして、就労支援に留まらず利用者の人生を豊かにするような娯楽も提供していることに、強く魅力を感じました。人生は働くことやお金なしには生きていけないけれど、生きがいや楽しみ、娯楽、趣味をも支援するこの団体は、就労支援という名前ながらも、人生の支援をしているのだと思いました。そんな素敵な施設に訪問することができて、人生を豊かにするものはやはり、思いやりの心を持つことや支え合って生きていくこと、そして人と関わる楽しさを忘れないことなのだと気づきました。

実際に施設の利用者の方々と交流し、お話をしてみると、たくさんの趣味の話を楽しそうにしてくださり、また仕事についても細かく教えてくださいました。

そして、利用者同士の仲間や利用者と施設の従業員の繋がりがとても密接で和気あいあいと楽しそうに過ごしている様子はとてもほっこりしました。

私は実際に交流をして、また本当に楽しく生活を送っている様子を目の当たりにして、施設の利用者の人々が生きがいを感じて豊かな人を送っていることが、実感できました。

次に、私は西ノ島中学校で生き方学習という授業に参加し、中学生と私たち法政大学生との交流を行いました。この授業での中学生の狙いとしては、①大学生がどんな目標をもち、どんな学習をしているのかを知り、自分のこれからの生き方や今努力することについて考える。②グループ活動を通して、自分の考えを表現する力を養う。この2点でした。

中学生との交流の前に中学校の先生と私たち大学生との打ち合わせを行いました。その打ち合わせでは、交流会を通しての狙いや生徒の勉強意識を向上させるには？など話し合い、また大学生1人に対しての中学生の割り振りなど発表されました。

その割り振りの際には、学年担当の先生が人クラス分の生徒の勉強状況、性格、クラスでの様子、家庭での様子など1人1人の事柄について事細かく教えてくださいました。そこで私は、今まで私が通ってきた中学高校の先生と何か違うエネルギーを感じました。私は生まれも育ちも神奈川県で、幼稚園から高校まで人数が多い環境で過ごしてきました。そのため「生徒1人1人に対して夢や希望を強く心から抱いている先生というより、集団として生徒達の将来を応援しているという先生が多かったなあ。」とこの時思いました。

それと同時に、この西ノ島中学校の先生は、この島前地域の将来の若い希望を全力で支援している熱量をすごく感じました。そして、先生と生徒の密着した生活が島地域のとても魅力的な一面だと思いました。

島前という地域を将来へ繋げていくには、この若い中学生がすごく期待されていることが伝わり、「この交流が中学生にとってよう刺激になればいいな。」と心から思い、中学生との交流に挑みました。

私の担当は女の子2人でした。実際に中学生と交流してみると、意見や考えていることがとてもしっかりしていて、逆に私が刺激を受けました。他の生徒たちも自分たちが生まれ育った地域がとても大好きで、将来はこの島に貢献をしたい！と考えている生徒が大半でした。担当の女の子の1人は保育士、もう1人は看護師になって地域の人々の役に立ちたいという気持ちや、現在の勉強面での頑張りや悩みを教えてくださいました。

私は生徒がこんなに将来についてしっかり考えていることと勉強に真剣にとっても驚きま

した。なぜなら、事前打ち合わせの時に「この島には高校や大学がないから、将来についてのイメージがしづらい。だから勉強のやる気が湧いてこない生徒が多いのです。」とおっしゃっていたからです。

しかし実際には先生の生徒への熱量に比例して生徒の将来に向けての希望と努力が高まっていることが分かりました。

先生の生徒を思う気持ちと、生徒の地域を思う気持ちが、うまく幸せの連鎖を起こしていて素晴らしいと思います。

このように、島の人口減少している地域の高校や大学がない中でも、中学校の先生の生徒一人一人に対する思いが生徒に伝わっていて、将来のより良い地域につながっていくのだと思いました。やはり、心の繋がりやこのように人を思いやることは、他者の気持ちを良い方向にもたらし、それはいずれ形として地域に貢献するのではないだろうかと思います。

最後に、島の様々な人からもたくさんの学びを得ました。

島に到着した初日、バスに乗って宿へ向かいました。そのバスの運転手のかたは、地域住民と和気あいあいと会話をし、遠くからやってきた私たちとも楽しくお話をしてくれ、この島でのおすすめスポットなども教えてくれました。私が住んでいる地域ではバスの運転手さんと会話を気軽にする光景は見たことがないし、自分自身もそのような経験は無いため、とても新鮮だったし、とても人と人の距離の近さを感じました。

また、宿近くの近所の方がご飯をくださったり、とってきた貝をくださったりして、この地域ではこうやって周り近所と支え合って生活しているのだと感じました。これもまた、私の暮らす地域ではなかなか無い事なので、驚きと羨ましさを感じました。

また、私たちがタクシーに乗って島を移動した時に、ドライバーさんが牛の放牧されているエリアの道を通して紹介してくれました。それだけでもおもてなしの心を感じたのですが、タクシーのメーターを止めてくださり、値段は通常で島を案内してくださりました。こんなにも親切で思いやりやおもてなしの心であふれていて、あたたかい気持ちを持っている人が多いこの地域は、本当に幸せを身近に感じられる素敵な場所だと心から思いました。

このように地域が親切で優しさで溢れる社会になるのは、人の優しさは他者に受け継がれ、連鎖していく事が要因の一つなのでは無いかと思いました。

最後にまとめると、島で学んだ事は

- ① 人生を豊かにするものは、思いやりの心を持つことや支え合って生きていくこと、そして人と関わる楽しさを忘れないこと

- ② 心の繋がりやこのように人を思いやることは、他者の気持ちを良い方向にもたらし、それはいずれ形として地域に貢献する
 - ③ 地域が親切で優しさに溢れる社会になるのは、人の優しさは他者に受け継がれ、連鎖していく事が要因の一つ
- この三点です。

したがって、日本は現在抱えている地域の過疎化や高齢化社会の進行により生活が困難になってきている地域でも、この三点のように心の繋がりやの改善をしていくことによって、人々はより幸せを身近に感じる地域で暮らしていけるのではないだろうかと考えます。

これこそが、Well-being 全ての人々が健康で幸せな生活を送ることができるような社会を創造するにあたって大切なことであるでしょう。